

関東地域の火山由来地盤の災害事例研究と地域特性に関する研究委員会
地盤特性グループ打合せ

議 事 録 (案)

日 時 平成 23 年 2 月 22 日 (火) 15 時 00 分～18 時 00 分

場 所 社団法人地盤工学会 (東京都文京区千石 4-38-2) 3 階会議室

出席者(敬称略) 村上, 中澤, 山田, 宇高

議事録者 宇高

資料 日経コンストラクション抜粋 (配布)
基準類の整理 (ppt)

議 事

1. 作業の進捗状況の確認
2. 物性データの収集
3. 報告書の記載内容
4. 今後の作業

1. 作業の進捗状況の確認

- ・ 各委員の進捗状況を確認した
- ・ 村上委員により, 論文に記載のあったデータの所在地 (地域) について, プロット例が示された。“Google Earth” を用いて整理されているが, 報告書など, 成果を取りまとめる際に公開する場合も想定されるため, 利用の可否を調査しておく必要がある
- ・ 前回, 大里委員よりご提案いただいた領域分けを反映させる
- ・ 施工事例として, 中澤委員より文献 (日経コンストラクション: 切土の数年後に「遅れ破壊」) の写しが配布された

2. 物性データの収集

- ・ 前回作業方針の一つとしていた国交省公開データ (kunijiban) について, 試験データ有無の確認とボーリング柱状図を一つひとつ画面上で確認しなければならず, 作業効率が極めて悪い

- ・ 公開されている地点，試験データの有無などが取りまとめられた一覧表が入手できないか，問い合わせが可能か？
- ・ 民間企業が所有しているデータを用いることについては，各業務の発注者との契約関係の下でなされたものであり，何らかの承諾が必要となるのでは？ 慣例として，これまでの委員会で同様の作業をしたことがあるか？

3. 報告書の記載内容：「設計・施工上の地域特性」について

- ・ 設計としては，対象構造物ごとではなく，①切土，②盛土，③構造物の区分程度にとどめる
- ・ 施工に関しては，新たな知見が得られない可能性が高い。このため，地盤改良（六価クロム溶出）に限定する

4. 今後の作業

- ・ 収集した論文で物性値を拾い出す作業については，深度や場所が特定されたものに限定する。各委員の担当論文から有益な物性値情報（物性値＋深度）の有無を確認する

＜担当：各委員＞

- ・ データベース（kunjiban）の一覧リストが入手でき，関東ロームなどのデータが所定量存在することが認められる場合には，こちらを加える。これについては，下記の手順で行う

①有益な（報告書に記載する）物性値情報（物性値＋深度）については，論文のみでは情報として不十分であることから，データベース（kunjiban）などで補間することとする。

②なお、データベース（kunjiban）については、検索時間が膨大にかかることを考慮し、情報一覧表が入手可能かどうかについて若井委員長を中心にデータベース管理者等に相談を行い、入手可能＋情報量が満足するものであれば有益な（報告書に記載する）物性値情報（物性値＋深度）として加えていく

③ただし、データベース（kunjiban）において有益な（報告書に記載する）物性値情報（物性値＋深度）が入手困難である場合は，別の手を検討する必要あり

※県などに依頼し、生データの収集＋編集を行い有益な（報告書に記載する）物性値情報（物性値＋深度）を整理していく…などなど

※物性値情報を扱う場合、コンプライアンス・著作権などの処理を念頭に置く必要がある

＜担当：まずは若井委員長，大里委員にご相談＞

- 各担当論文を基に前回の委員会（平成7年）以降でトピックを抽出
＜担当：各委員＞
- 報告書を整理するに際し、各委員において関東ロームの一般的な分布範囲を成書（「関東ローム」、「日本の特殊土」など）で再確認するとともにこれまでの整理内容・記載内容の把握を行う
＜担当：各委員，主として宇高＞
- 自治体で定めている基準類を確認し，関東ロームに特化した記載をリストアップする。また，各基準の比較についても行う（対象は，宅地，道路など）
＜担当：山田委員，高橋委員＞
- 崩壊事例などは，まずは文献などから収集することとし，場合によっては所轄機関や有識者にヒアリングすることも検討する

【次回】

4月中旬～下旬（2WG 合同の委員会開催前に）

以 上